

令和6年度プロジェクト課題概要

令和6年4月1日 美里農業改良普及センター

課題名	計画期間	対象 (農家・対象等)	概要	課題名	計画期間	対象 (農家・対象等)	概要
1 土地利用型法人の経営戦略の策定と持続的経営の展開 (継続) 「園芸振興」関連課題	令和5年度～7年度	(農)おおぬき彩土里ファーム (役員6人) (大崎市田尻)	【現状と課題】 <ul style="list-style-type: none"> 農事組合法人おおぬき彩土里ファームは、令和3年8月に21戸で法人化し、経営面積は約80haで、経営品目は主食用米、飼料用米、WCS、小麦、大豆、牧草である。 令和4年6月に40代の組合員が代表理事となったが、代表以外は70歳前後である。法人設立時に5カ年の事業計画を策定したが、経営の維持・発展を図るためには事業計画の検証と見直しを行い、組織運営手法を確立する必要がある。そのためには決算書や経営分析により経営状況を把握し、事業計画の検証を行うことが求められる。 また、将来の担い手確保に向け、労働の平準化と収益向上を図るため、高収益作物の導入を検討することとしている。 令和5年度は経営管理研修会・雇用管理研修会・先進経営体視察等を通じて、事業計画の見直しや5年後の将来ビジョン作成を行った。ビジョン実現に向けて経営品目の見直しや人材確保に向けた検討が始まった。 また、高収益作物としてさつまいもの試験栽培を行ったところ、収量・品質ともに良好な結果となり、令和6年度から法人の経営品目にさつまいもと長ねぎを追加することとした。 【主な活動内容】 <ul style="list-style-type: none"> 経営管理能力向上支援 →総会開催支援、法人運営支援及び計画作成支援、経営収支分析支援等 転作作物の栽培技術向上支援(さつまいも等) →ほ場改良・定植指導、栽培指導、収量調査等 	3 堆肥の活用と施肥方法の改善による麦類の品質・収量向上 (継続) 「耕畜連携」関連課題	令和5年度～7年度	麦生産者14経営体 (涌谷町)	【現状と課題】 <ul style="list-style-type: none"> 涌谷町では大規模畜産農家が複数あり、堆肥の年間生産量は10,000t以上だが利用しきれていない。そのため、町内に堆肥のストックヤード3か所を設置する計画があり、令和6年度から2か所が稼働予定である。 水稲-麦類-大豆のローテーションによる作付が多く、水稲への影響(倒伏等)や作業時間の関係で堆肥を施用していないため、地力低下を感じている関係者も多い。 他県では、大麦の生育途中で牛ふん堆肥を散布した後作の水稲・大豆の収量・品質が向上しているデータがあるが、当地域での適応性を確認する必要がある。 涌谷町は県内でも有数の小麦産地である。令和4年産から品種は全て「夏黄金」に切り替えたが、弱小穂が発生しやすい特徴がある。令和4年産は全量一等だったが、播種遅れや湿害により、収量は260kg/10aと低かった。 小麦のタンパク含有量を上げるためには穂揃期追肥が必須だが作業的に困難なため、減数分裂期の一括追肥が主流である。品質・収量向上に向けた追肥方法を検討が必要である。 令和5年度は堆肥活用の講習等により、麦類生産者の半数以上が堆肥活用に前向きな姿勢を見せている。堆肥施用効果や追肥方法については調査を行ったが効果が判然としなかったため、令和6年度も引き続き検討する。 【主な活動内容】 <ul style="list-style-type: none"> 堆肥の有効活用支援 →実証ほ設置、生育調査、栽培講習会、堆肥活用PR等 麦類の品質・収量の向上支援 →実証ほ設置、生育調査、現地検討会等
2 「北浦梨」産地の活性化に向けた、ICT活用による栽培の「見える化」 (新規) 「園芸振興」「アグリテック」関連課題	令和6年度～8年度	JA新みやぎ北浦梨部会若手生産者1人、役員3人 (部会員35人) 株式会社ファームおてんとさん栽培担当者2人 (美里町)	【現状と課題】 <ul style="list-style-type: none"> 大正時代から栽培が始まった美里町の「北浦梨」は、令和5年4月現在の栽培面積は約10ha、生産者は約40人で、「水稲+園芸」の複合経営主体の産地である。 直近では平成30年に後継者として栽培を始めたJA部会員がいる。また、自宅敷地内に園地があるため、経営継承は主に家族・親族間が一般的だが、令和3年に(株)ファームおてんとさんが継承・新規参入した。栽培管理技術の習得には時間を要するため、早期の経営安定には、関係機関やJA部会役員等による栽培技術継承・定着に向けた仕組みづくりが必要である。 多くの生産者は栽培管理作業を感覚的に行っている。若手農業者の栽培技術習得と円滑な経営継承には、デジタル技術を活用して農作業・生育状況・栽培環境等の「見える化」が重要であり、若手生産者及び新規参入者を契機に推進する必要がある。 気象庁アメダス観測地点(鹿島台)と園地の気象経過に差異を感じている生産者が多い。令和3年及び5年の開花期～幼果期に凍霜害が発生したほか、病虫害発生・防除時期の前進や延伸が生じており、園地ごとの気象データや病虫害発生状況の把握が必要である。 【主な活動内容】 <ul style="list-style-type: none"> 栽培環境の「見える化」支援 →気象データ収集展示ほの設置等 病虫害発生の「見える化」支援 →発生消長調査、情報交換等ネットワークづくり等 経営の「見える化」支援 →栽培管理記録支援、経営管理講座の実施、複式簿記指導等 	<参考> 令和6年度 重点活動 <ol style="list-style-type: none"> 新規就農者の確保・育成に関する取組【新たな担い手・女性活躍】 対象: 新規就農者、農業研修生、教育機関、学生 関係者と連携した土地利用型園芸作物の安定生産【園芸振興】 対象: JA新みやぎさつまいも研究会、たまねぎ栽培志向生産者、露地園芸作物生産法人等 地域農業担い手の経営発展に関する取組【農業経営管理、地域計画】 対象: 経営発展を志向する経営体 ニーズに対応した特色のある米作りの取組支援【地域実情】 対象: 「金のいぶき」生産者、松山町酒米研究会、大崎市有機農業・グリーン化推進協議会 			

